

研究・調査報告書

報告書番号	担当
300	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Recent trends in risky alcohol consumption and related harm among young people in Victoria, Australia. オーストラリアのビクトリアでの若者の危険なアルコール消費と関連した危害	
執筆者 Livingston M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Aust N Z J Public Health. 2008 Jun;32(3):266-71.	
キーワード アルコール中毒、思春期、データ収集、入院、救急医療	
要 旨 目的： オーストラリアのビクトリアで危険レベルまで飲酒する若者の割合の最近の傾向と若者が経験する飲酒による害の起こる割合を調べた。 方法： 危険レベル量の飲酒をしている若者の割合がデータを使用できる範囲内で果たして上昇しているのかをはっきりさせるため、飲酒量関連の質問をした調査で公表された一連のデータをこの研究で使用した。近年の飲酒に関連した害の傾向を調査するため、飲酒が原因の入院についてと救急医療科の若者に対する講演も調査した。 結果： 調査データでは混成した結果が得られ、危険レベルまで飲酒する若者の割合にはっきりした傾向は認められなかった。飲酒による害、特に急性アルコール中毒の割合は近年劇的に増加していることが示された。 結論： 調査から導き出された飲酒量の概算と飲酒関連の害の割合の関係は予測したよりもはっきりしなかった。また、有害な飲酒パターンの変化を知るためには、一般人の調査では感度については懸念が持ち上がった。 示唆： ビクトリアでの若者のアルコール関連の害の近年の上昇傾向について早急に公共の健康介入の必要性が示唆される。	